

アラ かん 新生活

ふちんかん

いつの間にかアラかんと呼ばれる年代になったが、この年になって生活をガラリと変えることにした。この連載ではその変容を書き記してみたいと思う。

第12回 夢の模型部屋

小学生のとき、鉄道関係のムック本で鉄道模型の存在を知り、そこで紹介されていた固定式レイアウトに憧れを抱いて幾星霜。新生活で夢が実現した。

部屋が余る

アラかんのおっさんが一人暮らしするには広すぎる物件を契約した。大量の荷物も十分な収納スペースに収まっている。そしてあまり動きたくないの、生活場所は北側のLDKだけである。

LDKにつながっている和室(4.5)は、夏と冬の寝室として使っている。またプロジェクターの映像(アマプラの映画やゲーム)を1畳大のスクリーンに映す映写室となっている。

バルコニーがある和室(6)は、春と秋の寝室、そして洗濯ものを干したり、衣類をストックする部屋として使っている。

残る和室(7)が特に使い道が定まっていない部屋であった。

ここにはカメラや鉄道模型、PCグッズなどを、引っ越しの際に大量に持ち込んだ段ボール箱とともに置いていた。まあ趣味の部屋という感じになっていたわけだ。

そしてたまに手持ちのFineTrackを敷いて、お座敷レイアウトを楽しんでいたわけだが、どうも子どもの頃のようなわくわく感が得られない…。なぜか？

おそらく大人の身長では列車までの距離が長いためだろう。しかも視力は低下、視野も狭くなっている。そして身をかがめて顔を列車に近づけるには、残念ながら体が硬すぎる。





アラクン 新生活



模型部屋のはじまり

そこで自身のWOOの集合式レイアウトのモジュールを段ボールでかさ上げして、つなげて走らせたりしていた。固定式レイアウトの始まりである（第0期としよう）。この路線は単線のP2P（両端間の往復）走行である。距離が短いので自ずと単行の車両のみの走行となる。

しかし少数ではあるが所持している編成車両も走らせたい。

そこでWOO共有の鉄道模型の線路を預かっていることに目をつけた。次の走行会で押し入れにしまうだけの毎年であったが、これをつなげれば…長距離路線も作れるのではないか。

第1期固定式レイアウト(2023.9~)

メーリングリストでメンバーの同意を得て、固定式レイアウト製作を始めることに。大量に預かっている荷物の中に複線高架線路がある。これを複線ではなく単線の往復用として使いドックボーン型で長距離ループ路線を作ることにした。段ボールを土台として、その上に大量に所持していたパネルを置いて平準化した。段ボールの種類や向きを変えることで、高さの変化を作った。右の写真の奥（白い山の部分）がドックボーン的一端で最高地点である。線路は白い山を回って手前で折り返し、[「秋の田舎町」モジュール](#)を通して、2枚目の写真の左側につながっている。そしてモジュール2つを含む奥が反対側のドックボーン端になっている。

こちら側には、[「分岐駅」モジュール](#)から単線を切り出しローカル線とした。さらに車両基地（左下写真）も作った。またドックボーン端の内側に手持ちのFineTrackを用いて、小さな単線ループ路線を追加した。

見えにくいが高地側のドックボーン端の内側にも単線ループ路線を設けた。





連載のページ



以上で路線としては、長距離の単線ループを基本として、秋の田舎町モジュール内のループ線、ドックボーン端内の2つのループ線と合計4路線となった。

カメラ映え

WOOの集合式レイアウトの売りの一つに[トレインスコープ]を仕込んだカメラカーがある。私も[カメラカー](#)を3両所持している。

このカメラカーからの映像を少しでも現実感を持たせたく、線路の周りに不織布などを敷き、周囲の壁はキャンプで使用していた青色の保温マットで囲った。さらに雲を表現するためにペイントしたり綿を貼り付けたりした。

また夕景をイメージするオレンジ色の照明装置も複数購入したりして、映え要素を高めてみた。



すると今度は映像の品質を高めたくなり、[PETA-CAM]を購入、組み込んだカメラカー新造した。

さらに1年後にはアクションカメラである[HDR-AS300]と[HX-A1H]を載せたカメラカーも新造した。カメラは元々趣味なだけに沼りやすい…



第1期の欠点

けっこう固定式レイアウトの設営に没入していたのだが、だんだんと欠点も上がってきた。

まずは地盤沈下である。土台の段ボールには20年以上前の古いものも混ざっており、徐々にへたって変形してきた。段ボール間で高さが不揃いになり、妙な加速減速や停止をするようになった。線形も悪く、カーブ直後に分岐モジュールを配置していたため、脱線が頻発した。車両基地へアクセスにも急なS字カーブの小モジュールを挟んでおり、ここでも脱線が頻発。

また奥の高地側へのアクセスには線路をまたがねばならず、億劫になってきた。



アラクン 新生活



第2期固定式レイアウト(2024.6~)

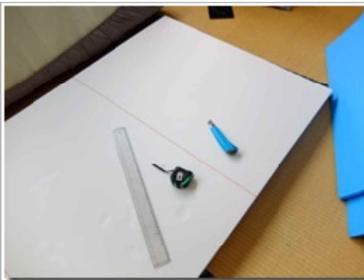
第1期の反省点を活かした第2期レイアウトを作成した。

まず、地盤沈下対策として、3cm厚のスタイロフォームを4枚購入し、切り出して段ボール間をまたぐように設置した。土台となる段ボールも新規に20箱購入し、古い段ボールの使用頻度を下げた。多少段ボールがひずんでも段ボール間に架かるスタイロフォームが変形するわけではないので、安定感は抜群に向上した。

また段ボールは2つ重ねとして、前回よりも基盤を高くして視線に近づけた。



1畳大のスタイロフォームを4枚



カッターで切り



段ボールの上に乗せる



部屋右



部屋入り口



部屋左 将来車両基地になる部分

今回のメイン路線は、写真のように複線高架をそのまま利用した複線ループである。部屋の四辺を走る路線により編成車両を走らせっぱなしにする。前回できなかった対向車両との「すれ違い」を実現したかったのである。

さらに長編成ではないがそれなりの長さのある車両を走らせるために、高架線に巻き付くように単線ループのサブ路線を設置。この路線も小さいながら車両基地がある。この路線は、梅田のポポンデッタやネットフリマで中古の FineTrack 製品を大量購入することで実現した。これで3編成を走らせっぱなしにすることが実現。

そして既存のモジュールを利用したローカル線を中心部に設置。「分岐駅」モジュールを始終点とする単線P2P路線とした。また駅と反対側にはローカル専用の車両基地を設置した。



連載のページ



スタイロフォームは着色



鉄橋になる部分



車両基地になる部分



メイン路線と車両基地



サブ路線と車両基地



ローカル線と車両基地

メイン・サブの3路線に、P2Pのローカル線、既存の「秋の田舎町」モジュール内のループ、さらに部屋の左奥に余ったスタイロフォームで山をつくり、その上を小さく周回する山岳ループ線も設置した。

これにより、合計6路線、けっこうな大所帯となった。

ループ線は走らせっぱなしで良いので、常にコントロールが必要なのは、ローカル線のみである。



左奥に山を作る



線路を仮置きしてみる



着色し設置



カーブのカーター橋を自作



樹木を大量に製作



スタイロフォームに刺す



アラカン 新生活



さて、ようやく走行にも撮影にも自身の要望に耐えるレイアウトが完成した。はじめはWOOの預かり荷物を利用したレイアウトだったのが、まあやり始めるときりが無いものだ。パワーパックや線路など元々あったものだけでは足りず、中古ではあるが色々買いそろえたり、カメラカーも含めて車両もいくつか追加購入したので、けっこうな出費となった。



35年ほど前に購入したトラコン



スマホ運用『TRAIN TECH』



30年くらい前に購入のDU202



赤いトラス橋がP2Pローカル線
緑のトラス橋がサブループ線
奥の高架がメインループ



「分岐駅」モジュールを利用した
始・終点駅



山岳ループとメインループ、サブループの4列車

第2期の欠点

第1回の欠点をクリアし、それなりに快適な走行が楽しめるようになった。それでもやはり気になる部分はあるものだ。

まず部屋に入るために、外周ループ線をくぐる必要がある。段ボール2個分の高さなので、かがむように入る。まるで茶室の入り口である。

そして入場後、部屋の中から周囲を走る列車を眺めることになるので、一目で全容を捉えられない。移動する列車を見続けるには徐々に体をねじる必要があるということだ。見るだけなら回転椅子で対応できるのだが、有線のコントローラーは動かせない。…これは思ったよりストレスである。うーん、次に作るなら、入り口付近にコントロール部を作るか。

第12回 終了

以上で『アラカン新生活』を終了します。以降の生活の変容は『チラ裏』で記します。